



2022年 10月人権一口講座



「笑顔」が家族の宝物」

古くから知る父母の友人の記事が新聞に載っていた。お互いの家族同士とても親交が深く、私を含めて互いの子どもたちも自然と仲良く過ごしていた。ちょっと違っていたのは、一緒にいても相手家族の息子である太郎さん(※仮称)はおしゃべりは出来ず、体の自由もままならない障がいがあったので、いつも太郎さんのお母さんに抱えられ、僕を含めた子どもたちは一緒に遊ぶことが多かった。

その頃の僕は「障がいがあるけれどそんなのは大変ではなく大人になっていくにつれ、体も大きくなり体力もつくので深刻なことではない」と太郎さんのことをそう受け止めていた。

ですが、中学生になった頃県内の支援学校に進学した太郎さんとその家族に久しぶりに会った時のことです。驚きました！自分が思っていた以上に太郎さんが成長していたのです。車いすに乗った太郎さんのお世話がかなり大変で疲れるものであるということに、私はその日気付かされたのでした。

それから後も私達は家族同士の交流が続き、子どもたちが成人をし仕事に就いた後も会う機会が多く、いろいろな昔話もできる年頃になりました。ある日のこと、私は太郎さんのお母さんから「あなたたちが遊びに来てくれ、とても家の中が明るくなったの。太郎も喜んで笑うし、喜びの感情で手足が自然と動くのよ」と話を聞くことがありました。

自分たちがそんなことで太郎君家族を幸せな気持ちにすることが出来ていたなんて全く知りませんでした。太郎君のお母さんがする読み聞かせと一緒に聞き、テレビを見て一緒に大笑いしたあの時の笑顔の太郎君が思い起こされるそうです。スポーツや学業など様々な場面で活躍する同世代の人々をどこどこで見ることがとても辛かったの。そう、話してくれました。

笑顔が素敵だった家族の宝物「太郎さん」は他界されました。お母さんが「人生は悲しんではかりはいられない。楽しく過ごすことを考えて生きてきましたよ。」と笑顔で話される姿に、私も前向きな気持ちを忘れないようにしよう！と考え、今では日々を過ごすようにしています。

(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」十月号より)

人とは何か違っていてもいいと思う
だってそれが長所かもしれないよ

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 北部中学校 2年 武田知夏さんの作品より